

インスペクション チェックリスト

全ての競技者は、保護具を装着しない状態でインスペクションを受けること。

指定された検査官に全ての保護具を提示して検査を受ける。ファールカップは道着の内側に装着すること。

- (1) 競技者は W T 公認の道着と電子ソックス、保護具を装着しているかを確認する。
- (2) 金属探知機を使い、許可を受けていない金属製品を装着していないかを検査する。
- (3) 競技者の鼠蹊部にファールカップが装着されているか、競技者に鼠蹊部を叩かせて確認する。
ファールカップが道着の内側に装着されていることを確認する。
- (4) ハンドグローブ、電子ソックスが良好な状態か確認する。
特にマジックテープが外れやすい場合はテープで固定させる。
- (5) 電子ソックスのセンサーの数は、『マグネットカード』を使って確認する。(DaeDo の場合)
KPNP は検査台でセンサーチェックを行う。
- (6) ポビーピン、ピアス（舌または顔）に装着していないか確認する。
また頭に不適切な装飾をしていないか確認する。
- (7) 指と足指の爪をチェックする。短くカットされ、エッジが鋭い場合には削ること。
- (8) 競技者のマウスガードが正しく装着されるか確認する。
また競技中にマウスガードを口から出したり、噛んだりすることは許可されていない。
- (9) 長い髪の競技者はゴムバンドで髪を縛り、ヘッドギアの中にしまうこと。検査員は髪が上から出てヘッドギアを覆ってはいけない事を競技者に伝える。ヘッドギアの後ろ側からはみ出してもいけない。後ろから出ている髪は 10 センチを超えてはならない。
- (10) ヒジャブは道着の首の部分に挿入できるだけの十分な長さがなければならない。
そしてそれを金属ピンで止めてはならない。
- (11) 道着のズボンの裾を巻き上げてはならない。ズボンが長すぎる場合は、腰からロールアップさせる。
ズボンの長さは踝の上までとする。
- (12) PSS 防具の正しい付け方は次の通り。紐は全ての紐穴を上から下へ、十字形に通し、ぴったりと競技者の身体に合わせて縛る。

(13) 競技者が宝石、プラスチック製のリング、友情のブレスレットなどを装着していないことを確認する。

(14) コーチが事前に認定されているか必ず確認する。コーチに同行できるのはチームドクター、理学療法士、カイロプラクター若しくはアスリートトレーナーのいずれか一人となる。こちらも認定されているか確認する。男女混合団体戦の場合は、コーチ2名とチームドクター/トレーナー/理学療法士のいずれか1名が同行できる。

(15) マウスガード（厚みは3mm以上あること）

色は白、または透明のみ認められる。（必須）例外なし

矯正の無い競技者の場合：

1. 上部マウスガード（部分的にカバーされているものは不可）
2. 歯科医のカスタムメイド推奨

矯正のある競技者の場合：

1. ダブルマウスガード（上部と下部の矯正箇所両方をカバー）
2. 上部マウスガード（全ての歯がカバーされている）と部分的な下部のマウスガード（少なくとも6つの前歯をカバー）
3. 上部マウスガード（全ての歯がカバーされている）と下部矯正部をカバーするブレースチューブ/シールド

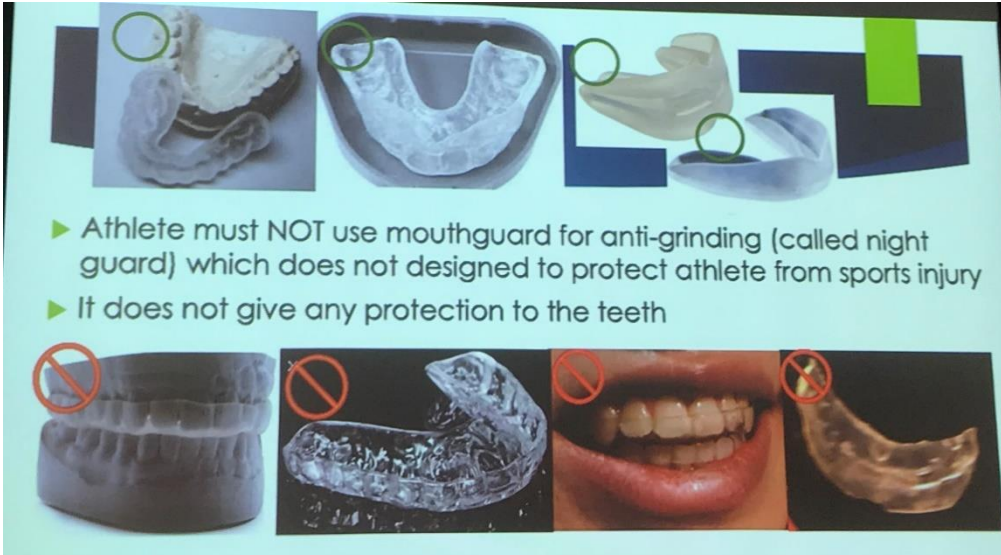
(16) テーピング/ブレース

1. 検査中に厳密にチェックする。
2. 疑わしい場合は、メディカルチューアまたはコミッションドクターと確認する。
3. テープの色は白もしくは薄いベージュ色のみ。
4. 薄いフォームもしくは吸汗用アンダーラップは最大で2層まで許可されているが、テープで覆う必要がある。
5. 怪我の場合最大4層（2mm）まで、通常は2層（1mm）まで許可する。
6. 砥粒テープは露出してはいけなく、また、伸縮テープはテープで覆うこと。
7. 硬い物質（金属、プラスチック、マジックテープ）は許可されない。
8. 拳へのテーピングは禁止されている。
9. ネオプレン素材の膝と肘のサポートは許可される。
10. 膝のさらの周りのシリコン（ソフトジェル）のパッドは、6mm以下のソフトな素材（金属エッジのないもの）であれば認められる。
11. 足の甲にアザや血腫がある場合、ソフトフォームやガーゼの使用を認める。フォームパッドは4mm以下、ガーゼは4層までとし、2層のテープで固定する。
12. 前足/アーチには2層テープのみの使用を認める。
13. テーピングはつま先、足首は覆ってはならない。

参照：REVISED 2019 Inspection Check List_2019.12.17.docx（参考和訳）

参照イメージ：

①



- ▶ Athlete must NOT use mouthguard for anti-grinding (called night guard) which does not designed to protect athlete from sports injury
- ▶ It does not give any protection to the teeth

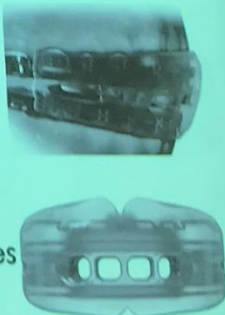
②

Athletes with braces

- ▶ Athletes with braces **MUST consult his/her dentist** for customized mouthguard before participating in competition.
- ▶ Any athlete with brace must follow one of below options (1)-(3).

(1) Double mouthguard for braces
(which covers **both upper and lower** teeth and braces)

- ▶ : This give the **best protection**
=> Strongly recommended



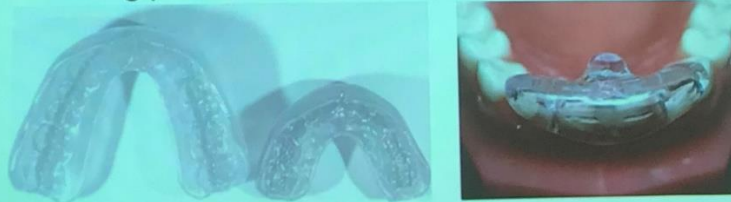
③

Athletes with braces

(2) **Full upper mouth guard for brace AND partial coverage lower mouthguard for brace (must cover at least 6 lower teeth)**

- covering 8 teeth is safer than covering 6 teeth

▶ => **Still safe.** It is allowed to use (2) if the athletes have severe breathing problem with double mouthguard.



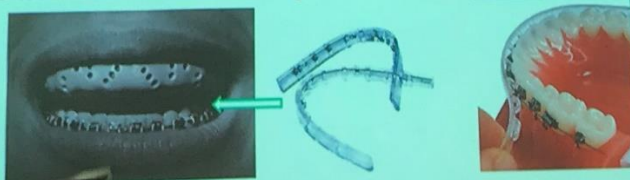
④

Athletes with braces

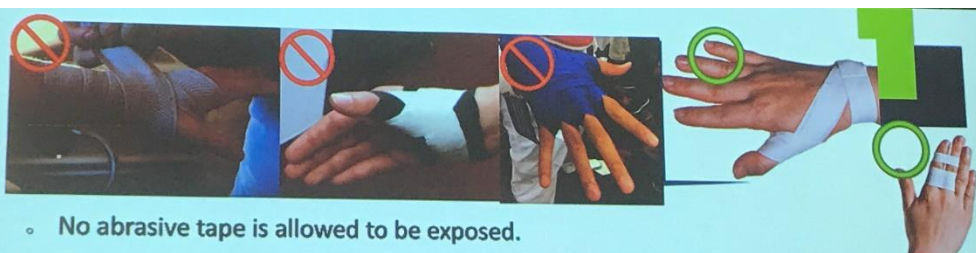
(3) **Full upper mouth guard for upper teeth and braces AND brace tube/shield for lower brace**

: It temporarily covers exposed braces so that it is at least not going to harm the opponent. However, it has minimal protection for the athlete with braces.

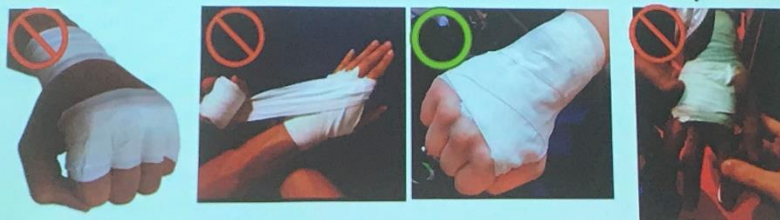
▶ This is the **least favorable (least safe) option.**



⑤

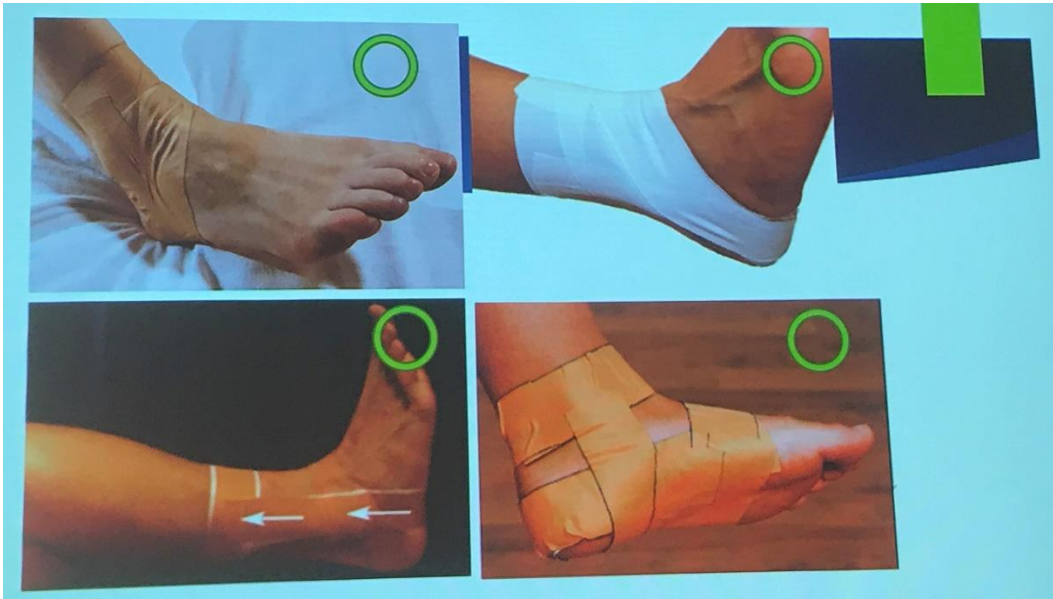


- No abrasive tape is allowed to be exposed.
- Elastic or Elastikon tape must be covered with one to two layers of white athletic tape.

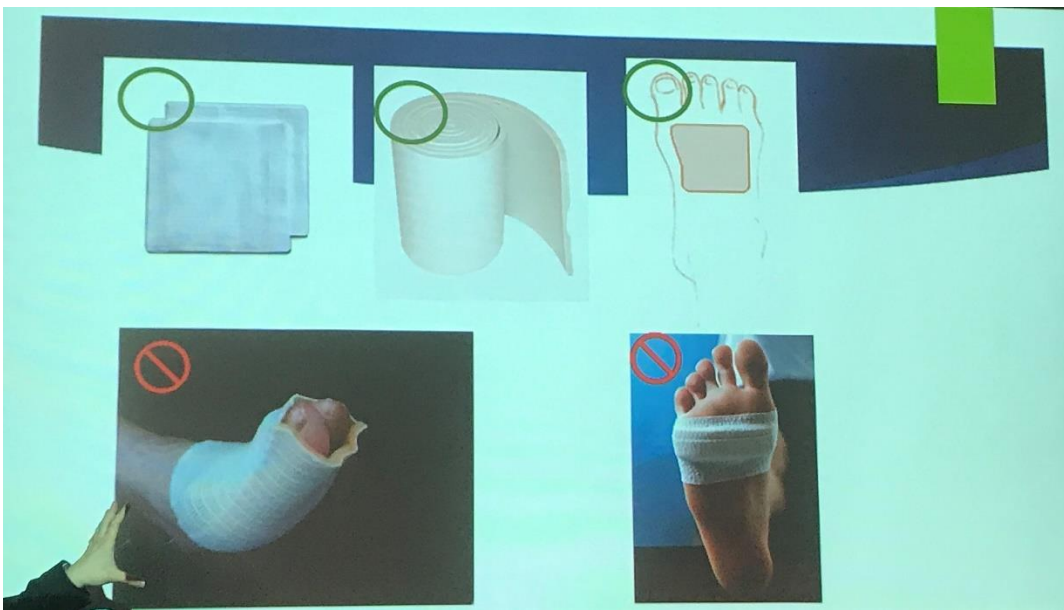


No taping on the knuckles of the fist is allowed.

⑥



⑦



⑧

Bracing





No hard substance (metal, plastic, Velcro strap, etc) is allowed to be used in taping



Material : Only neoprene is permitted.

⑨

▶ Silicon (or other soft gel) padding around knee cap may be permitted as long as it is soft material and the thickness is less than 6mm (or 0.25 inch).



参照 : Medical Education for Referees (Medical Service, Emergency Action Plan and Safety Rules)
Dae Hyoun (David) Jeong, MD / Chairman, WT Medical and Anti-Doping Committee